



確認問題

記録文・報告を読む

要点 1 どんな事実をどのようにとらえたか 難易度 ★★☆☆

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1 夕方、次々と街中から集合してくるカラスたちは、広い緑地内のどこでどのようにして眠りにつくのだろうか。明治神宮の場合、夕方飛来するカラスを調べてみると、一旦は周辺の落葉樹などに止まり、時には数百羽で一斉に上空に飛び立つたりしてデモンストレーションを繰り返す。そして、日没間際に、次々とその夜の止まり木へと飛び込んでいく。薄暗くなつた時刻に、全身真黒なカラスが鬱蒼とした樹木の中に飛び込んでゆくのであるから、よほど注意して見ていないと飛び込む先がはつきりしない。しかし、方向としてはいずれもシイやカシなどの照葉樹林の高木の中である。

2 そととカラスの飛んでいった後を追ってみる。樹高二、三十メートルを越える高木ばかりがまとまって生えている場所に、数十羽のカラスの潜む気配がする。大きなライトで照らしてそとと見上げてみると、樹冠に近い小枝に黒い鳥のシルエットが見える。樹木の相当高い場所に止まっていることがわかった。

3 しかし、それもほんの数分のことであつた。たちまちわれわれの接近を感じとり、飛び立ってしまった。何羽ものカラスがカー、カーと薄気味悪い声で鳴きながら、すでに日が落ちてすっかり暗くなつた夜空を旋回する。飛び立った群れはおよそ二、三十羽くらいである。やがて数十メートル先の照葉樹がこんもりとまとまって生えている樹木の中にバタバタと翼を枝にぶつけながら飛び込んでいく。そこで、カラスの飛び込んだと思われる樹木にそとと接近していく。すると、最初は樹木に止まっている姿をかいま見ることが出来たのに、すぐに警戒心を増し、人の接近を事前に察知して飛び立ってしまう。他の場所に潜んでいるカラスの群れもまた、警戒して人を寄せつけないのである。一カ所で飛び立ったカラスたちのざわめきによって、明治神宮でねぐらをとる数千羽のカラスの全群が、いま怪しい人がねぐら内に侵入しているという情報を入手して警戒態勢に入っているかのようである。

4 カラスの集団ねぐらの選定条件として人の立ち入らない緑地の樹木の存在をあげたが、中でも常緑樹を利用することが多い。冬季にも落葉せず、姿を隠したり寒さを防ぐのに有効だからである。明治神宮内を一巡して分かったことは、パツチ状に分散している常緑樹のあちこちに、数十羽ずつ分散してねぐらをとっていることである。馴れてくるにつれて、カラスの潜んでいそうな場所の見当がついてくるようになる。こんもりとした常緑樹の生える場所に接近すると、案の定バタバタと夜空に飛び出してくる。常緑樹の高所の枝付近であれば、上空からも、また地上からも発見され難い。実によく考えられた場所をねぐらに選定している。

学習した日 ()分
学習した日 ()分

また地上からも発見され難い。実によく考えられた場所をねぐらに選定している。(唐沢孝一「カラスはどれほど賢いか」)

(1) この文章は、何の調査の内容を記したものですか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 明治神宮内の樹林
イ 明治神宮内の鳥の種類
ウ カラスのねぐら
エ カラスの警戒心

(2) 線①「樹木の相当高い場所」とありますが、具体的にはどんな所ですか。文章中から七字で書き抜きなさい。

Blank box for answer (2)

(3) ③段落を、「事実」とその「解釈」とによって前半・後半に分けたときの、後半の初めの五字を書き抜きなさい。

Blank box for answer (3)

(4) 線②「常緑樹の高所の枝付近」をねぐらに選定することは、カラスにとつてどんな利点があるのですか。④段落全体の内容をふまえ、二点に分けて書きなさい。

Blank boxes for answer (4)

